

シラバス情報

| 授業方法 | 講義 ・ 実験 ・ 実習 | | |
|------------|---|--|--------------|
| 系 列 | 実 習 | | |
| 科 目 名 | 手仕上げ工作・機械工作・基本計測 | | |
| 必修・選択 | 必修科目 ・ 選択科目 | | |
| 対象学科 | 二級自動車整備科二輪自動車整備士コース | | |
| 年次学期・曜日・時限 | 1年前期 | ・ 木～金曜日 | ・ 1時限～8時限 |
| 時 限 数 | 64、6時限(期末試験を除く) | | |
| 担当教員名 | 廣石 泰大・川向 芳子 | | |
| 実務経験 | 有 ・ 無 | | |
| | 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備等を行う上で必要となる各種測定機器の使用について実習する。 | | |
| 授業の目的 | 基本的な測定機器、工作具等の正しい使用方法を習得する。 | | |
| テキスト | ① 実習テキスト | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 授業回数 | テーマ | 内容・方法等 | 使用テキスト 範囲 |
| 第1回 | ディメンション測定 | 諸元に従い、車両の寸法、角度等、各部の測定を行い二輪車のシステム全体を把握する | ①P117 |
| 第2回 | 測定機器（ノギス） | 二輪車の各部や部品を使用してノギスの使用方法、及び測定と読み取りの習得をする | ①P20～21 |
| 第3回 | 工作1 | アルミ丸棒からナットを削り出す。金のか、平やすり、ボール盤、タップの使用法を習得する | ①P1～3 |
| 第4回 | 工作2 | 鉄丸棒からボルトを作製する。金のか、割りダイスの使用方法を習得 | ①P1～3 |
| 第5回 | 工作3 | 製作したナット、ボルトの仕上げ（磨き、デザイン等）耐水ペーパー、コンパウンド等使用。 | ①P1～3 |
| 第6回 | 測定機器（マイクロメータ） | 二輪車の各部や部品を使用してマイクロメータの使用法及び測定、読み取りの習得をする | ①P22～23 |
| 第7回 | 測定機器（ダイヤルゲージ） | 二輪車の各部や部品を使用してダイヤルゲージの使用法及び測定、読み取りの習得をする | ①P25 |
| 第8回 | 測定機器（シリンダゲージ） | 二輪車の部品を使用してシリンダゲージの使用法及び測定、読み取りの習得をする | ①P26 |
| 第9回 | サーキットテスタ | 基本電気回路を使いサーキットテスタの使用法、及び基本的な測定の習得をする | ①P11～19 |
| | ステップ試験（中間試験） | 第1回～第9回までの授業内容に関する実技試験 | |

| | | | |
|---------------|---|------------------------|--|
| | 期末試験 | 第1回～第9回までの授業内容に関する実技試験 | |
| 到達目標 | 基本的な測定機器、工作具等を正しく使用出来るようになることを目標とする。 | | |
| 成績評価方法 | 平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。 | | |
| 定期試験受験資格 | 開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。 | | |
| 成績評価基準 | <p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">中間試験の点数 30%</p> <p style="margin-left: 40px;">期末試験の点数 40%</p> <p style="margin-left: 40px;">平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="margin-left: 40px;">60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p> | | |
| 成績評価できない場合の基準 | 全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。 | | |